

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		児童生徒一人ひとりの可能性を引き出し、元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。
(2)	育みたい児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の関係機関・団体と協働して学習を進めている。 ②地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ③自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ④学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ②地域の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ③地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ④教育環境をソフト・ハード面で整備し、児童・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ⑤ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<ul style="list-style-type: none"> ①<児童生徒> 健康で楽しく安全に学び、社会で役立つ知識や技能を習得できる学校であり、卒業後の進路が期待されている。 ②<保護者> 楽しい学校生活を送り、卒業後の進路決定についての関心が高い。 ③<地域の学校> 特別支援教育の専門的知識や技能の提供と教育相談の充実。 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> ①<保護者> ・安全・安心な学校生活と進路の決定 ②<地域の福祉関係機関> ・地域行事への学校、児童生徒の積極的な参加と情報の提供 ③<地域の学校> ・特別支援教育の専門性の提供及び巡回相談等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①<保護者> ・教育活動への理解と協力及び参画 ②<地域の福祉関係機関> ・在学中から卒業後も切れ目のない支援体制 ③<地域の学校> ・本校への理解と協力 ・交流活動の充実
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○授業公開や学校行事の様子を外部の方々に広く公開し、多くの方から声がけしてもらうことで子どもたちの自己肯定感を育んでいきたい。 ○本校の小・中学部のみならず地域の小・中学校の特別支援学級の保護者にも高等部卒業後のイメージをもってもらうような取り組みを進めていきたい。 ○スマートフォンの適正使用やSNSのトラブルなどの課題の解決に向けて、家庭とていねいにコミュニケーションを図りながら指導していきたい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○子どもたちの直面する課題の解決に向けて、外部の専門家に助言をいただきながら、家庭と連携して取り組んでいきたい。</p> <p>○子どもたちの特性を伸ばす教育活動を様々な教科や特別活動、学校行事の中で実践していきたい。</p> <p>○子どもたちの実態や課題を把握したうえで授業および指導ができるように指導計画の作成・評価のスケジュールを見直し、設定した目標の評価を定期的に行うという流れのカリキュラムマネジメントを推進していきたい。</p> <p>○卒業後の生活や進路先に関する情報については、今後も早い段階から保護者に周知したり、外部の関係者に情報発信したりするなどの取り組み行っていきたい。</p>
	学校運営等	<p>○より明確に児童生徒の実態やニーズを把握するための調査方法や子どもたちのコミュニケーション能力向上につながる指導方法などの研修を行っていきたい。</p> <p>○地域の幼稚園や保育園、小中学校に向けて、高等部卒業後の進路希望に向かうために必要とされる力や障がい特性についての理解、障がい者を取り巻く社会の情勢についての理解が深まっていくように情報発信していきたい。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>①<個々のニーズに応じた授業の実施> 個々の特質を把握し、そのニーズを十分踏まえて「個別の教育支援計画」等を策定する。これらに基づき教育課程や学習計画を作成し、児童生徒の自立に向け、多様な生活学習の場を提供する。</p> <p>②<進路支援の充実に向けた取組> 「個別の移行支援計画」を策定し、地域、関係諸機関との連携を図りながら児童生徒の支援を継承する体制を確立するとともに、卒業後の進路選択肢の拡大に向けた取組と情報提供を行う。</p>
学校運営等	<p>①<専門性向上の取組> 教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識を持つとともに、1つ以上の分野（特質・疾病等）について、専門的な知識・技術を持ち、地域からの相談に応じられるようにする。また、センター的役割を果たすため、教材や図書室等資料を整備し、地域等への貸出しを行う。</p> <p>②<地域ネットワークの拡大> 地域の保・幼・小・中・高各学校、園や福祉関係施設、行政機関等との連携を強め、個人情報に配慮して情報共有を図る。また、紀南地域でセンター的機能を果たす本校との連携も深める。</p> <p>③<児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備> 児童生徒が安全に学校生活を送ることができる環境を整備する。</p> <p>④<情報提供による信頼の構築> 保護者や地域の「信頼」を確保し続けるために、さまざまな広報媒体を効果的に組み合わせた情報発信を行う。</p> <p>⑤<職場環境の整備> 教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、目標・目的を共有する。話し合いの場を設定し、業務内容の見直しや過重労働の削減などに取り組む。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
個々のニーズに応じた授業の実施	<p>【小学部】</p> <p>体力の維持・向上と健康管理。</p> <p>○活動指標</p> <p>・ベーシックタイムに参加して体力を維持・向上する。</p>	<p>【小学部】</p> <p>・ベーシックタイムや体育では歩く・走る・跳ぶなどの基本の運動をおこない体力の維持向上に努めた。</p> <p>・毎日、ベーシックタイムに参加できた。</p>	

<p>進路支援の 充実に向け た取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食環境を整備して肥満度(指数)を維持する。 ・家庭や医療機関と連携し児童の体調把握に努める。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベシクタイムの参加率90%以上 ・肥満度(指数)の現状維持 ・対象児童の療育相談やリハビリに2回以上参加する。 <p>【中学部】</p> <p>学校外での授業実践の機会を増やすことによって、対人関係や生活経験の幅を広げ、生きる力を育む。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物学習や公共施設の利用、自然とのふれあい学習、地域での奉仕活動など学校外での学習活動を、様々な授業の中で実践していく。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5教科以上の授業の中で、校外での学習活動を実施する。 <p>【教務・研修部】</p> <p>カリキュラムマネジメントの充実を図る。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の目標や指導内容を意識した授業をおこない、指導および改善に取り組む。 	<p>[参加率:100%(不参加0回 165/165)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満度(児童平均)は 0.05 減少した。 <p>[30.53(中度肥満)→30.48(中度肥満)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育相談、リハビリの参加回数:4回 (内訳:対象児童2名が2回ずつで合計4回) <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出ていくことによって、学校周辺の地域について様々なことを学ぶことができたり、地域の方々から声をかけていただいたりして生徒たちの経験や対人関係の幅を広げることができた。 ・特別活動の時間に「地域での清掃活動」を6回、総合的な学習の時間に「宿泊学習のための買い物学習」を1回、国語の時間に「身近な言葉の学習」を1回、美術と作業学習で「授業の材料探し」をそれぞれ1回、生活単元学習の時間に「季節の生き物や草花探し学習」を5回、その他道徳や数学での買い物学習など(計8教科で延べ17回)実施することができた。 <p>【教務研修部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期および後期の個別の指導計画の作成時に、学習指導要領の学習内容を簡潔に示したものを教員に周知した。 ・学期末評価に対して各学部ごとでグループやクラス単位で検討会や回覧を実施し、目標に対して適切に評価できているかチェックをおこなった。 ・令和6年度に向けて、教育課程を見直して改善をおこなった。 ・指導と評価の一体化に向けて、設定した目標について定
--------------------------------	---	---

	<p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画で立てる目標について、教育課程にあるすべての教科の目標を設定し、教育活動に生かしたか。 <p>【高等部】</p> <p>生徒の個別の目標から、卒業後の進路を見据えて、一人一人つきたい力を明確化し、日常の教育活動で目標を反映させながら取り組むことでその実現を図る。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路先で必要とされる力や姿に基づきながら、一人一人につきたい力を明確化し職員間で共通理解を図る。 ・目標達成に向けた指導・支援の工夫等授業改善に取り組む。 ・進路に関する現状と課題を共有し、共通理解のもと、個々の進路指導を行う。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、進路担当からの情報提供の機会を設ける。 ・目標設定や手だて等の、振り返りを年に2回行う。 <p>【総務部】</p> <p>PTA を中心として進路支援活動を行ない、市町や福祉事業所との連携を強化し、地域の進路先確保を目指す。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路部と協働し、民間福祉事業所との合同懇談会の開催、市町への要望書の作成・提出、保護者の進路支援懇談会等を行う。 ・保護者や地域に情報発信をすることで、さらなる進路支援の連携を目指す。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事業所、保護者等の進路支援懇談会を年2回以上行う。 	<p>期的に評価をするように促した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の教員アンケートを実施し、「できた」「おおむねできた」という回答が 23 人中 20 人(87%)であった。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の、実態や卒後につきたい力について情報共有し、個別の支援計画を活用した。また、学級活動やそれぞれの授業の場において情報交換を行い、指導や支援の工夫に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、個々の生徒に重点的に付きたい力と、支援について明文化し、学部会で情報交換をおこなった。(前期、後期 2 回) ・進路担当から、現場実習、移行支援ケース会議、の際に現状など、進路について必要な情報を得て、進路指導をおこなった。(3回) ・学部会毎に生徒についての情報共有を行い生徒理解に努めた。(13 回) ・進路学習、作業学習、学級活動等で個々の目標を意識して指導。 ・生徒に対してわかりやすく目標を伝え、自己理解を深めるよう努めた。 <p>【総務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/11(土)に卒業後の生活についての保護者を中心とした懇談会を進路支援部と共催した。 ・PTA進路支援に係る懇談会の開催回数…1回 ・保護者のアンケートを元に要望書を作成し、年度末に市町に提出する予定。
--	---	--

	<p>【進路・教育支援部】</p> <p>よりよい進路選択に向け、早期から進路に関する意識を向上し、在学中から卒業後の生活について見通しを持って準備を進められるよう、全学部の教員・保護者への情報提供を行う。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部の教員および保護者に向けて、高等部の進路支援や卒業後の生活に関する情報を提供する機会を増やす。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAと連携して卒業後の生活を具体的にイメージできるような研修や活動を行うとともに、地域の福祉事業所の現状について理解を深め、話し合える機会を作る。 卒業生や事業所の様子を通信だけでなく、授業公開期間等を利用して動画等で伝える方法を検討する。 	<p>【進路・教育支援部】</p> <ul style="list-style-type: none"> PTA と連携し、文化祭の午後に、PTA 学習会として卒業生の保護者2名から話を聞く機会を企画した。15名の保護者が参加し、卒業後の生活の様子や余暇活動などについて話を聞いたり交流したりすることができている様子であった。また、その際に地域の福祉事業所の現状や新しい事業所の情報提供もおこなった。 後期授業公開期間に、「卒業生の話を聞く会」の動画を2日間公開したが、参加人数が少なかった。3学期に配布する通信で様子を伝えていく。
--	--	---

改善課題

<p>【小学部】 ベーシックタイム、体育などの活動に参加でき、全体の肥満度の平均は少し減少した。肥満度が増加している児童は健康面に影響が出ないよう個別に専門家に助言をいただき、家庭と連携して取り組んでいきたい。また、活動を振り返ることで適切な課題を設定して体力の維持や向上・健康管理につなげたい。</p> <p>【中学部】 昨年度（3教科）に比べ8教科と教科の幅を広げ実施回数も上回ることができた。今後も継続して取り組んでいきたい。</p> <p>【教務・研修部】 学習指導要領を意識して、年間指導計画を作成したり、授業を計画したりする意識は高まっている。達成状況も昨年度より多くの教員が前向きな評価をしている。今後も、継続できるように働きかけていく。授業の改善と向上がさらにできるように今後も研修や情報共有などを進めていきたい。</p> <p>【高等部】 定例会議等だけでなく、日頃から情報交換を密にし、学部全体の共通理解のもと取り組んでいきたい。今後も、各行事、授業においてだけでなく日常生活全般で「つけたい力」を意識しながら取り組みをおこなっていききたい。</p> <p>【総務部】 卒業後の受け入れ先の定員に余裕が出てきたので、福祉事業所との懇談会の開催は見合わせた。今後は状況を見ながら、懇談会を開催する。</p> <p>【進路・教育支援部】 保護者への情報提供は、今後もPTAと連携し、より多くの保護者が参加し興味をもってもらえるような内容を検討していく。また、教職員に対しては、学部会や職員会議等において、卒業生や事業所について情報提供の機会を増やしていく。</p>
--

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>専門性の向上の取組</p>	<p>【教務・研修部】</p> <p>児童生徒の実態の把握に取り組み、年間指導計画の作成を考え、授業に取り組む。</p>	<p>【教務・研修部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実態把握、年間計画の作成、授業実践という一連の流れを確認しながら、全体研修を4回行った。10月には各学部毎に授業実践を行い、授業反省を行った。また1月に 	

	<p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態の把握の仕方について確認する。 ・年間指導計画の立て方について確認する。 ・授業参観及び話し合いを行い、次年度以降の年間指導計画や授業づくりに生かす。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末にアンケートを行い、専門性について向上することができたと答える教員の割合が80%以上である。 <p>【進路・教育支援】</p> <p>地域の小中学校や高等学校への巡回教育相談や夏季公開研修会等の実施を通し、小中学校や高等学校の教員の特別支援教育の理解と資質向上を図る。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校や高等学校との連絡を密に取り、ニーズを把握。 ・きめ細やかな巡回教育相談の実施。 ・支援法、教材教具、進路相談等の情報提供。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の、すべての小中学校や高等学校に支援の成功事例の紹介を行なう。 	<p>は年間を振り返り、各自の取り組みについてグループで話し合いをおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握においては、児童生徒に応じた把握の仕方で行うことができた。 ・年間指導計画の作成、授業に関しては、児童生徒の実態に応じて作成をし、授業を実施した。学習指導要領の指導内容の活用については学年学部が上がるにつれ活用のしにくさがうかがわれた。 ・専門性の向上については、向上できたと答えた教員の割合が70%であった。 ・地域の園、小中学校の訪問や相談は一学期に集中した。就学前の園児や小学校から次の進路についての相談が多く、希望の学校の見学を勧め、早い時期からの準備を助言した。夏季公開研修会は、特別支援の必要な児童、生徒についての進路について具体的な説明がなされ、大変好評であった。 ・保育園、幼稚園、小中学校保護者の相談の状況 派遣相談24、電話相談29、来校相談30 ・市町小中高等学校へ、今年度の取り組みから、相談の方法や流れを紹介して、各学校とコーディネーターとの連携がスムーズに行うための参考資料を発行した。 ・年度末に満足度調査を実施した。 結果は以下の通りである。 ・安全に関すること:100% ・授業に関すること:100% ・学校生活に関すること:100% ・アンケートにより、満足度100%を達成することができた。今後も生徒の様子に応じて、
<p>地域ネットワークの拡大と充実</p> <p>児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備</p>	<p>【生活支援部】</p> <p>安全・安心に係わる児童生徒の満足度調査の実施と課題の検討</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に対する学校独自アンケートを実施 	

<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートを2回実施し、1回目の結果からの行動の改善と2回目の結果から次年度に向けた課題の整理ができたか <p>ホームページによる情報提供や報道機関への資料提供を通じて、本校の教育活動を情報発信していく。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校ホームページの全面リニューアルを行う。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新月1回以上 報道機関への資料提供年5回以上 	<p>必要であれば個別に聞き取りを行い、出てきた課題を他の教職員と情報共有し、学校全体で課題解決へ向けて取り組みを進めていく。</p>
<p>職場環境の整備</p>	<p>教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を醸成する。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則として、毎月第2、第4金曜日を定時退校日とする。 会議は40分(16:10～16:50)以内の終了を目指す。 連絡事項はオンラインを活用する。 日曜日は出勤しない。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時退校日に定時退校できた職員の割合 80%以上 時間内に終了した会議の割合 80%以上 1人当たりの月平均時間外労働時間 12 時間以内 月 45 時間を超える時間外労働者数 0 人 年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人 1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 オフサイトミーティングを年1回以上実施する。 コンプライアンスミーティングを年3回実施する。 年度末の職員アンケートで満足度 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 更新 2 回 情報提供 7 回 <p>・信頼向上委員会の開催とコンプライアンスミーティング等の実施によりコンプライアンス遵守へ意識を醸成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 月を除き各月 2 回の実施 全会議で 40 分以内の終了 ほぼ活用できている。 1 人の出勤 <ul style="list-style-type: none"> 平均 83.8% 100% 6.3 時間 1 人 0 人 17.2 日 1 回 2 回 90.4%

改善課題

- 【教務・研修部】次年度から校務支援システムの活用が始まり、年間指導計画の作成、自立活動の目標設定等に関する基本的な知識がより必要となる。今年度研修で取り組んだ内容については、そこで活用してもらえるように、繰り返し研修を行い、より理解を深められるようにしたい。
- 【進路・教育支援部】市町保育園、幼稚園、小中高等学校とスムーズに連携を取り、相談事業を行うために、今年度中に、「相談事業についての案内」の手立てを考え、来年度初めから実践できるよう、計画立案する。
- 【生活支援部】引き続き、現在の指導を継続していくとともに、普段の生活で気になることがあれば、積極的に声をかけ、生徒が自ら相談しやすい雰囲気を作っていく。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域へ情報発信を継続しながら、子どもの就学や支援についてセンター的機能を高めたい。また、高校段階の支援として、地域の高等学校との連携が大切。 ○さまざまな課題を有する子どもたちへの支援の在り方として、スクールカウンセラー等、外部人材を活用しながら、本人や保護者の意向を最大限尊重した取り組みを進めることが望ましい。 ○防災教育では、自然災害を想定した訓練が定期的に行われている。訓練内容に体験的な活動も充実できるとよい。また、消費者教育など新たな課題対応していくことも必要。 ○高等部卒業後の進路については、長期的な視点から関係機関と連携した取り組みを継続的に進め、保護者や学校のニーズを伝えていくことが大切。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症対策の変化に伴い、本人や保護者のニーズに応じて学校間交流等、地域との交流を進めていきたい。 ○適切な学習内容を計画的に配置し、児童生徒の実態や課題に応じた指導の充実のため研修を深める。 ○進路情報や学校の様子など様々な機会を通じて容易に情報発信できる仕組みを整え、学校が保護者や地域の関係機関と良好な関係性を相互に築けるよう働きかける。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒や保護者が相談できる機会を充実させるとともに、外部講師を活用した学習機会の充実を図り、児童生徒の教育的諸課題の早期発見と早期対応につなげていく。 ○さまざまな研修機会を通じて、学校に新たに導入された情報機器や校務支援システムなどの活用に向け、教員のスキルアップにつながる取り組みを進める。 ○地域の幼稚園や保育園、小中学校に向けて、高等部卒業後の進路希望に応じて必要とされる力や障がい特性についての理解などが深まっていくように働きかけを進め、高等学校との連携の在り方を検討する。